

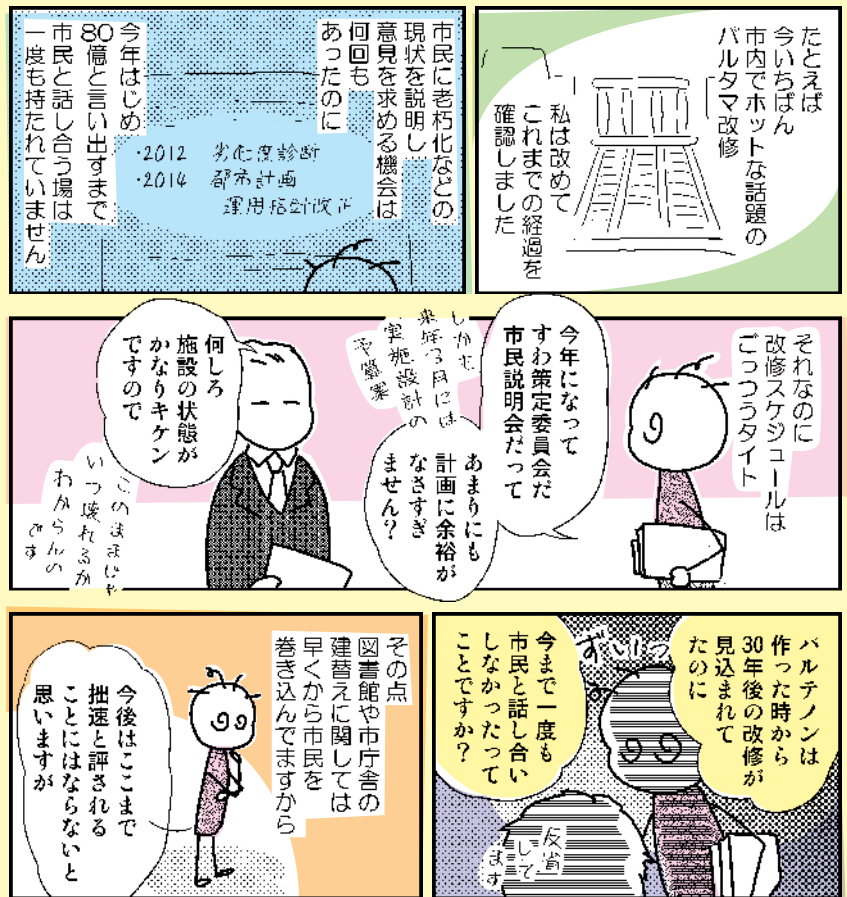
## 2

2つ目の質問で私が考えていたのは、「文化施設や図書館を今の段階で〇〇すべきとはとても言えないのではないか」ということです。つまり、基本をなおざりに端末の話をしている、という感がぬぐえないのです。

基本とはたとえば、パル多摩を使って提供もしくは創出したいと思っているものは何なのか、ということでもありますし、更には下のマンガで言っているような「まち全体の構成」の問題でもあります。

市全体の効率的な運営を考えれば、パル多摩や図書館だけでなく市庁舎、公民館の今後なども当然視野に入ってきます。また、開発やテコ入れで地域に格差を作らない配慮も必要です。今のやり方が果たして総合的かつ周到な方策と言えるでしょうか？

行政の内部には「経営会議」という形でトップの話し合いを行い、重要な施策を決めるという仕組みがあります。ここに市民の意見がどう反映されるのかも、大いに気になるところです。

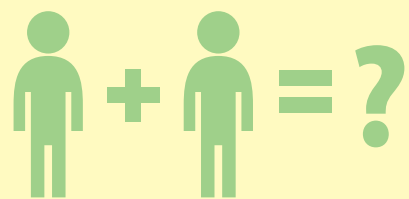


## ◆多摩市特別職のナゾ——議案反対

市には現在、厚労省から招聘した政策監(健康まちづくり担当)が1人いますが、来年度にもう1人東京都から政策監を招くということで条例の改正案が提出され、**生活者ネット・社民の会**はこれに反対しました。

新しい政策監にはオリ・パラ対策を含むシティセールスを担当してもらうとのことですが、市内の人材を育てず国や都に頼る市の方針は、前回同様に納得しがたいものです。

賛成多数で議案は可決されました。私たちが決まった以上は協力して市政にあたりますが、特別職制度のもたらす結果にはよく注意していきたいと思っています。



※伊地智恭子は、多摩・生活者ネットワークの向井かおり、岩崎みなこと3名で、会派「生活者ネット・社民の会」を結成しています。